

平成26年度 第4回市政モニターアンケート集計結果

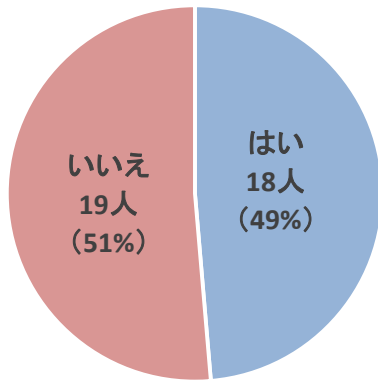
市の広聴制度に関するアンケート

○アンケート期間:平成27年3月7日～平成27年3月30日

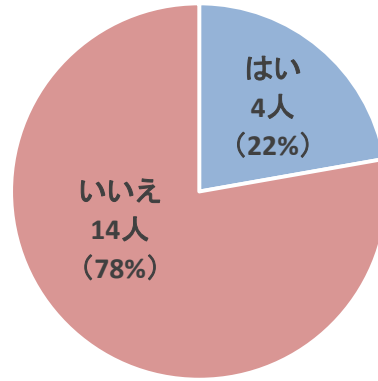
○アンケート回答者数:37人

現在の市の広聴制度について

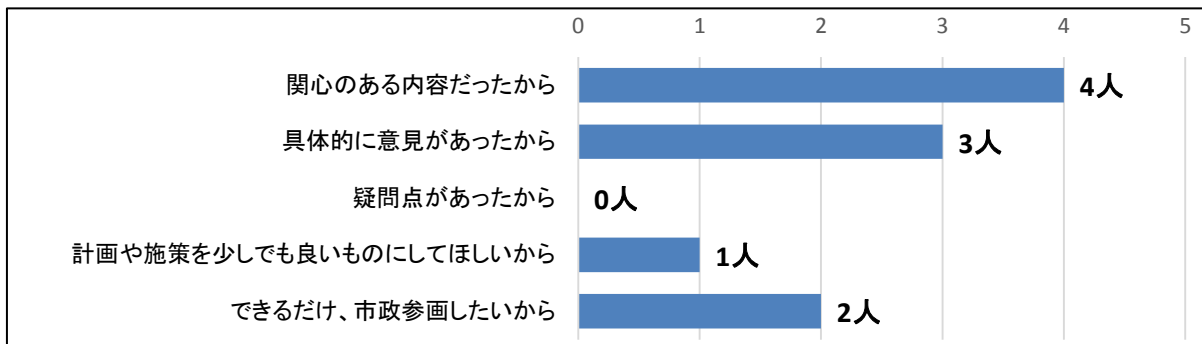
Q1 市の広聴制度のうち、パブリックコメントについてご存知でしたか？



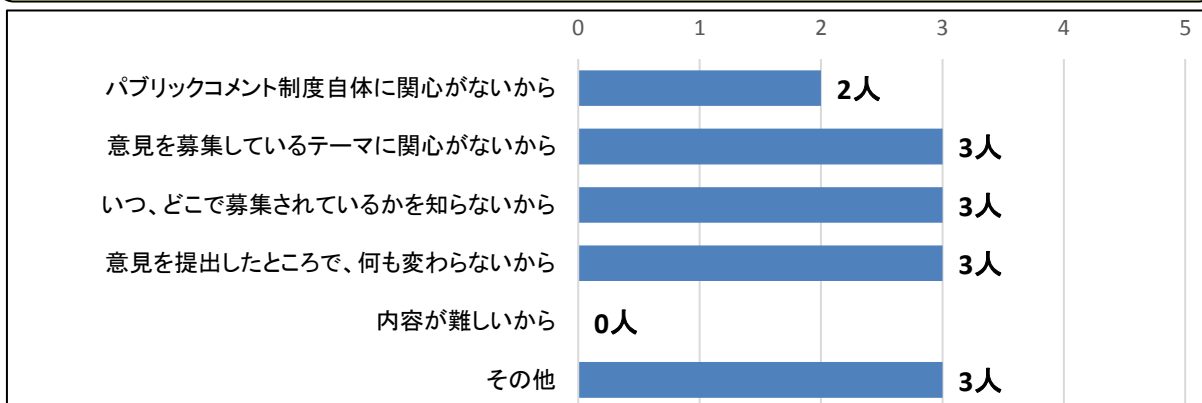
Q1- (1) (Q1で「はい」と回答した方) パブリックコメントを提出したことがありますか？ (n=18人)



Q1- (2) (Q1- (1)で「はい」と回答した方) パブリックコメントを提出した動機は何ですか？ (複数回答可)

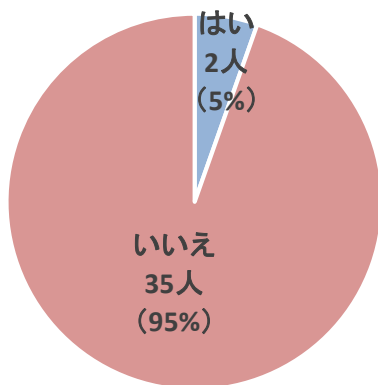


Q1- (3) (Q1- (1)で「いいえ」と回答した方) パブリックコメントを提出したことがない理由は何ですか？ (複数回答可)



※その他の意見:関心あるテーマの際に、資料を閲覧できる支所へ行きそびれた。

Q 2 市民意識調査が送られてきたことがありますか？



お二人とも、「提出した」と回答されました。

【参考】パブリックコメント、市民意識調査とは



● パブリックコメント

重要な施策・計画等の策定にあたり、その目的や内容等をあらかじめ公表し、市民の意見を募集、その意見を考慮・反映して意思決定するもの。

募集中の案件は、防災行政無線のほか、市ホームページでも告知します。

**議会改革特別委員会報告**

**高島市議会に関する市民意向調査 結果報告書（概要版）**

**I. 調査実施の背景と目的**

高島市議会では、平成23年2月の臨時会において、議会の一層の活性化やその果たすべき役割を認識し、議会の自己改革を進めることを目的に「議会改革特別委員会」を設置しました。この特別委員会では、「議会運営の検証と議会改革に関する調査検討」と「議員定数の適正規模の検討」を行い、市民に開かれた議会、市民に身近で信頼される議会をめざして調査検討を進めています。

今回の「高島市議会に関する市民意向調査」は、市議会に対する民意の反映と市民参加を進めるため、市民の皆さまの現状の議会に対する評価と議会改革に向けてのご意見を把握し、今後の議会改革に反映することを趣旨として実施したものであり、674人の方から回答をいただきました。本アンケートの趣旨をご理解いただき、調査にご協力いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

**II. 調査の方法・回収状況**

1 調査期間	平成23年11月25日～平成23年12月31日
2 調査対象	20歳以上の高島市民 1,085人 区長および自治会長 (H22・H23) 339人
3 調査方法	郵送配布→郵送回収（回収は無記名による）
4 回収状況	発送数/1,424人 回収数/674人 回収率/47.3%

● 市民意識調査 ●

**問3 市議会に関心がありますか。**

「少し関心がある」が52.5%と最も多く、「関心がある」が27.7%を合わせると、8割以上の方が市議会に関心を持っていただいています。

**問4 市議会の会議を見たことがありますか。**

7割の方が「見たことがない」と圧倒的に多く、「ある」と答えられた28.6%は、「市のホームページ」や「支所や公民館の中継テレビ」で一般市民のようすや会議録をご覧になっています。

見たことがある場合、その内容（複数回答あり）

市のホームページで一般質問や会議録を見た	90
中継テレビで一般質問や会議録を見た	41
本会議や委員会を傍聴した	0

属性（年齢等）等により、市民を1,000人単位で無作為抽出してアンケートを依頼し、郵送等で回答いただくもの。

## 市政モニター制度について

Q3-(1) これまでのアンケートテーマについて、あなたの関心の度合いとその理由をお伺いします。(n=37人)

### ①若者定住施策について

	関心の度合い	(高)5	4	3	2	1(低)
平均	4.0	15人	14人	4人	1人	3人

関心度	ご意見
5	このままいくと消滅可能性都市となる。
5	高島市全体が高齢化してきたため。
5	市の1/3が高齢者であり、人口も年々減っているから。
5	若者がいないと高島はどんどん活気がなくなると思っていたから。
5	将来のある(先の長い)若者が減少したらその地域に将来はない。
5	各区の存続や地域の活性化には若者の定住が必要だと思うから。
5	自分自身が高島市への移住者だから。
5	今後仕事をしていく上でも、人口が減ってしまっは不安もあり、人口増加のために若者定住が必須条件と考えるため。
5	高島から他県に通勤する人で高島に住みたいという人はいるのか。うちは家も建てましたが、高島市の業者を使わなかったので何にも恩恵は受けられませんでした。県外から来る人は家を建てるとき高島の業者を使うことは少ないと思います。だから、もう少し制度を変えたほうがいいのと、電車のダイヤを改正してほしい。朝早い時間、高島から神戸くらいまで直通の電車の乗り入れを要求します。
4	現在実施されている施策について疑問に思うことがあるから。 ①市民のごくごく一部しかかわかっていない。 ②移住者ありきの施策に偏っているように思われる。 ③移住・定住への助成(金・仕事etc.)や市民的支援(気持ち・思いやり・友好・交流)への依存について疑問。 ④移住者のみならず、既定住者(先住市民)が住み続けるのも結構厳しい昨今、両者に対してのバランスのとれた施策を望みたいから。
4	定住が目的というより、今暮らす者の生活の質を見直すことに関心があり、結果若者定住に繋がると思うため。
4	このままでは高齢化がどんどん進む危機感がある。
4	地域づくりは若者が必要であると考えから。
4	高島を活性する若い力が必要。
4	全国的に共通した課題。
4	自分のこととして認識しているから。
4	市(地域)の活性化促進。
4	自分自身も移住してきたから。
4	人口減。
3	自分の生活とは直接関係ないと思われるため。
3	家に残る子どもがいない。
2	仕事がなければ定住者も少ない。
1	職がない。田舎は意外に住みにくい。
1	ありえぬことと思う。限界集落の運命に甘んじる他ない。あるいは、良い例があっても当市職員(市長)にはその素地がない。
1	施策よりも、琵琶湖は人類生誕の地。聖地としての信仰の確立の方が大事。メッカには巡礼に多くの人が集まる、住む。

## ②各種健診の受診率向上について

	関心の度合い	(高)5	4	3	2	1(低)
平均	3.2	4人	12人	10人	8人	3人

関心度	ご意見
5	健康で長くないから
5	出来るだけ長寿を目指すため。
5	とても身近な問題であり、自分自身に大きく関わることであるため。
5	今、健康推進委員なので。
4	今は健康であるが、会社の健診だけでは心配である。
4	自分のこととして認識しているから。
4	受診率アップに伴う市民の健康維持。
4	市民が健康に関心を持ち、健康な生活を送ってもらいたい。
4	年をとると気になる。
4	加齢。
4	健診等が無いと自分で進んで健診を受けないと思う。
4	会社に所属していなくても安い値段で健診が受けられる制度があればいいのに、あまり受けない人がいることに驚いた。
4	病気になってから。
3	自身の健康状況に対しては重要な問題だが、なかなか足が向かない・・・同世代同様の思いなのでは。
3	自分の健康については自己責任でもある。
3	仕事に忙しくて利用が十分できない。
3	今まで自分も周りも大病をした経験がないから。
3	個人的要素が強く働く。
3	健康に対する個々の意識改革、啓発が必要。
3	特に関心があまりない。
2	健診は基本的に個人の意識の問題だと思うから。
2	自身では受診経験がないため。
2	今までこれといった病気にかからずに来たため、ピンとこないから。
1	必要なことと思いますが、根本的に対処療法ばかりに目を向けるのではなく、予防医学にも関心があるため。
1	身銭を切ってまで受診できない。適正年齢になれば死は避けられないという自覚を市民に届けるような体制をつくるべきではないか。
1	あまり身近に感じなかった。

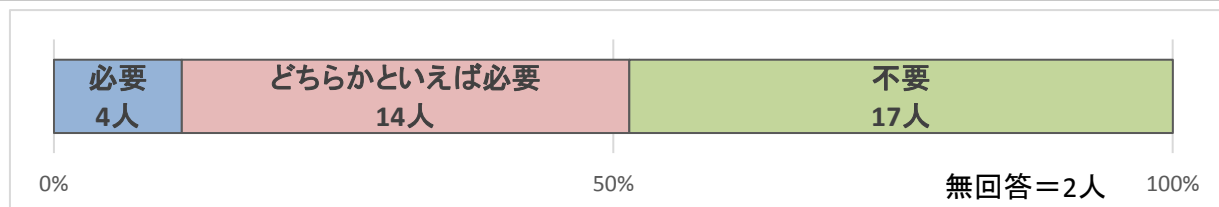
## ③防災について

	関心の度合い	(高)5	4	3	2	1(低)
平均	4.2	13人	19人	4人	0人	1人

関心度	ご意見
5	いつか災害は来る。
5	いつ起こるか分からないから。
5	いつ災害が起こるか分からないから、防災を詳しく知ることは大事だと思ったから。
5	特に阪神大震災の後思うのは、明日は我が身と思う。
5	一番は原発。できれば廃止してほしい。
5	特に原子力防災については、まだまだ出来ることが多く、実際の立地自治体ではないが、被害は同等レベルであるという、ある意味強い立場で市として態度を示すことができると思うため。
5	市民の意識向上による安全、安心を守る。

関心度	ご意見
5	各地で大きな災害があり、高島市でも大きな被害がでたことで、防災への意識が高まったから。
5	人間は生きているからこそ価値があるもので、事故(災害)死など、まっぴらごめんである。
4	近くに原子力発電所があること、大きな地震の発生確率が高いと言われるから。
4	原子力。
4	原発や地震が心配なため。
4	原発、河川の氾濫等、いろいろなリスクを感じています。
4	五感で確認できないものは不安。
4	自分のこととして認識しているから。
4	自分自身に関わる問題であるため。ただ実際に体験していないため、少し意識が低いかなとも思います。
4	時代のすう勢であり、被害を最小限に食い止めるため。
4	近年災害が多いため。
4	水害が身近に思われる。
4	身近なところで大きな災害が起きているため。
4	市民全員の意識向上の必要性。
4	情報発信を行い、防災訓練の実施、継続が必要。
4	組織としても関係する取組があるから。
4	関心はあるけど、なかなか実行することは難しい。
3	自分も13号台風で家を失っている。天災は防げない。
3	防災用品の使い方がわからない。仕事に追われて勉強する時間がない。
1	防犯灯代さえ自治会負担にしているような自治体で、市民の責任に転化する意外に、市に案はない。

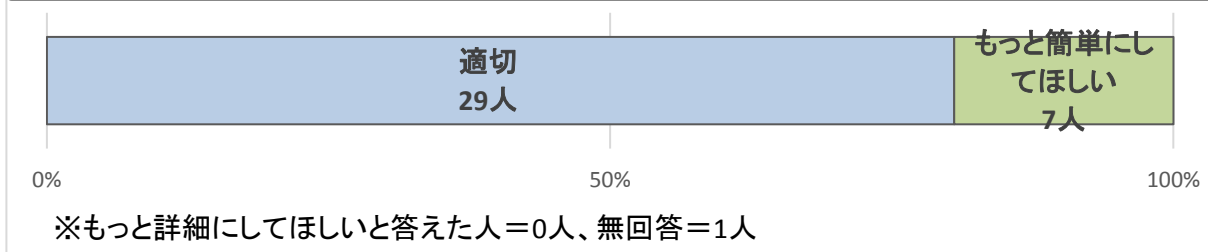
### Q3-(2) アンケートに関する事前説明会について



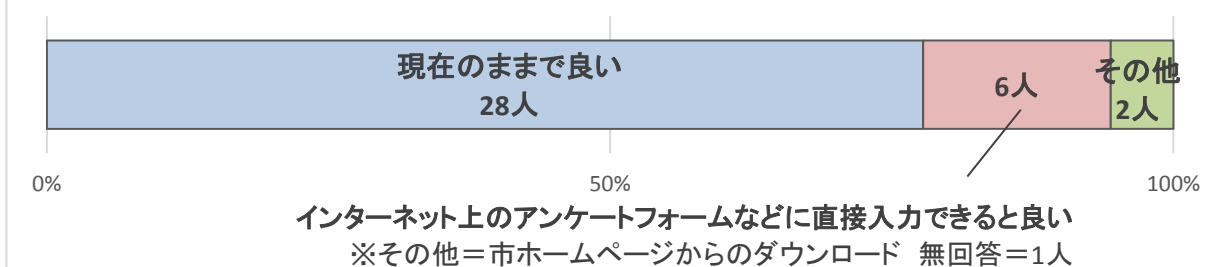
回答	ご意見
必要	モニターに何を求めるのかが、説明なしでは分からない。 理解、趣旨が分かりやすい。
	説明することにより、その主旨、目的がより明確になる。また市の立場としても、皆の前でちゃんと挨拶、お願いするのが世の中の常識である。
どちらかといえば必要	関心が薄い項目については特に情報を得たい。 物の考え方を方向づけるため。 あれば良いと思う。
	子どもの行事や送迎などで一度しか出席できなかったのですが、資料を読むだけではわかりにくかったので、説明会があるのは良いと思いました。
	説明のあった方が良いが、市民側が「説明会」をきちんと理解していないのが悪かった。
不要	資料だけ見れば理解できるから＝時間の無駄。 読めば分かる考える。 説明に値する十分な資料をいただいていたから。 資料があれば自分で調べることも可能なため。 設問内容についてならば読めば分かる。 アンケートそのものにさしたる難しい案件がない。

回答	ご意見
不要	説明会など開かなくても、その場で分かるから。
	ほとんどが説明をお聞きする形であれば資料だけでも問題ない様な気がします。
	家庭の都合上、説明会に参加することはできませんでしたが、送られてくる資料を見てアンケートに回答するのに困らなかったため。
	一度も参加せずとも、支障なかった。
不要	一度出席したが、アンケートの事前説明に対する質問外の質問が多く、アンケートのテーマを理解する機会、回答に反映できる情報収集の機会とは思えなかった。それぞれ、時間を割いて出席する必要性を感じなかった。送付・送信での資料提供で十分。
	内容にもよるが必要ない様に感じます。一部の人の不満のはけ口の場になっている。
	しゃべってばかりの人がいて、時間が長引くから。
	回答者同士が顔を合わすことに疑問を感じるから。
	土曜日は仕事がある。出席なんてできない。
	時間がとれない。

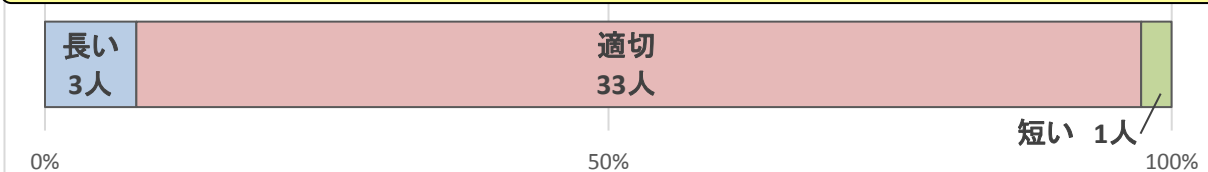
### Q 3 - (3) アンケートに際しての配布資料について



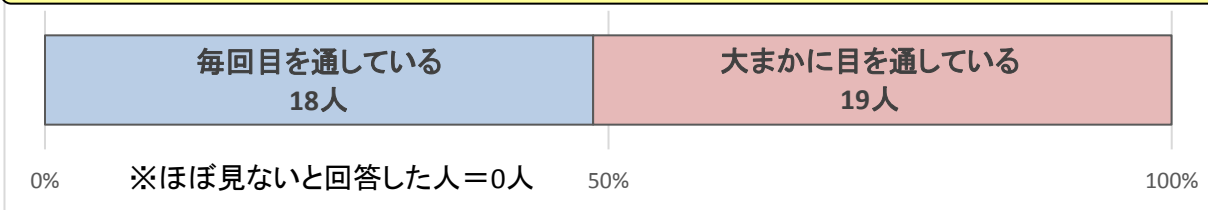
### Q 3 - (4) アンケートの回答方法について



### Q 3 - (5) 回答期間について（現行20日を確保）

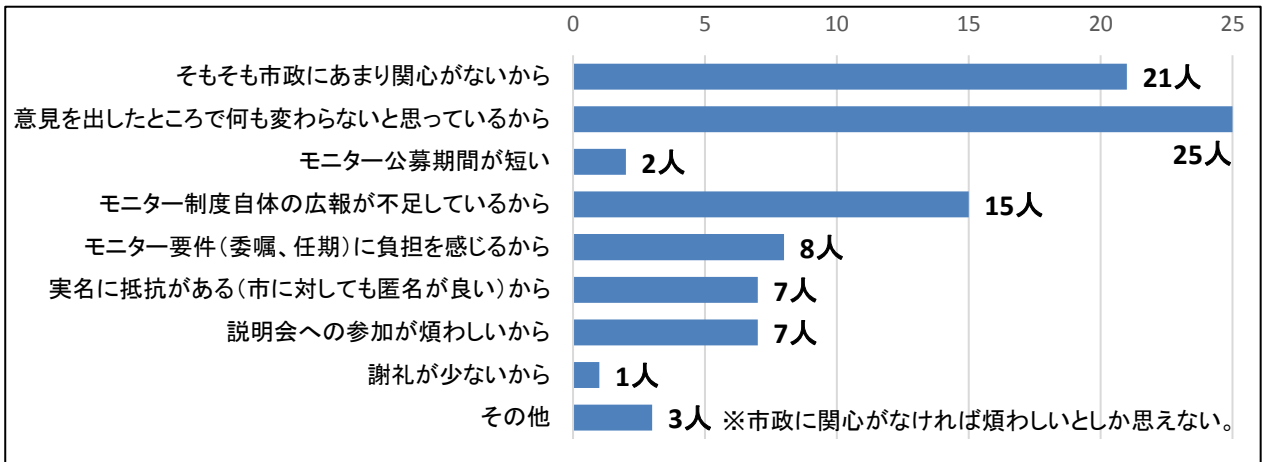


### Q 3 - (6) アンケートの結果について

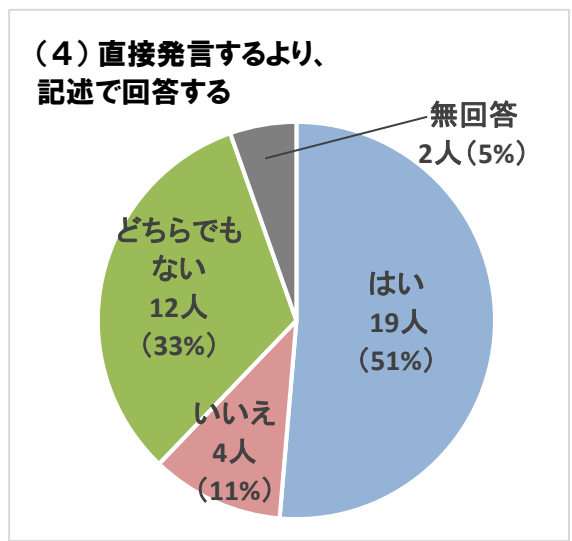
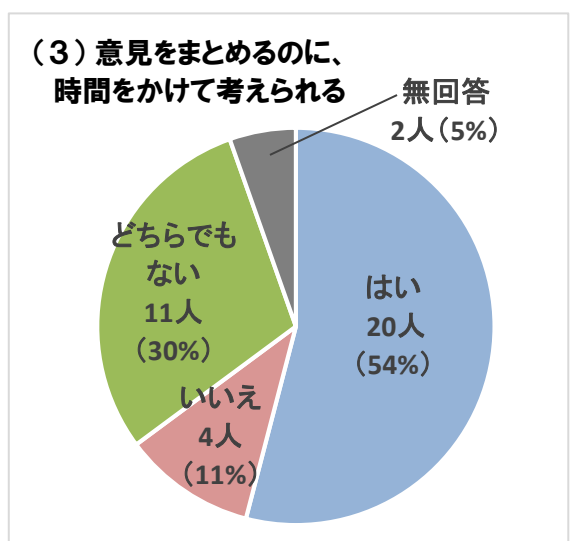
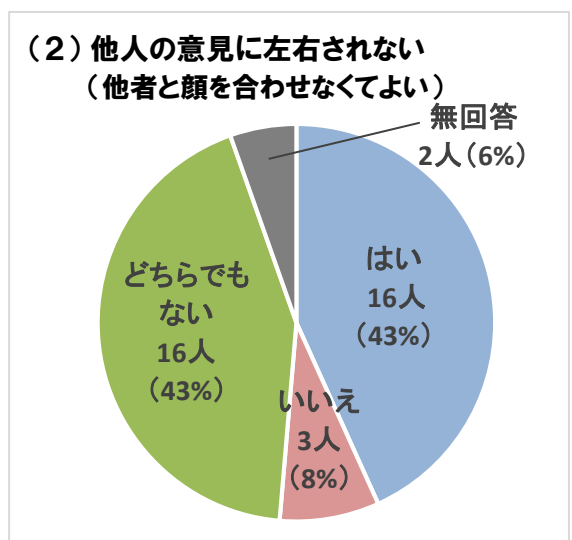
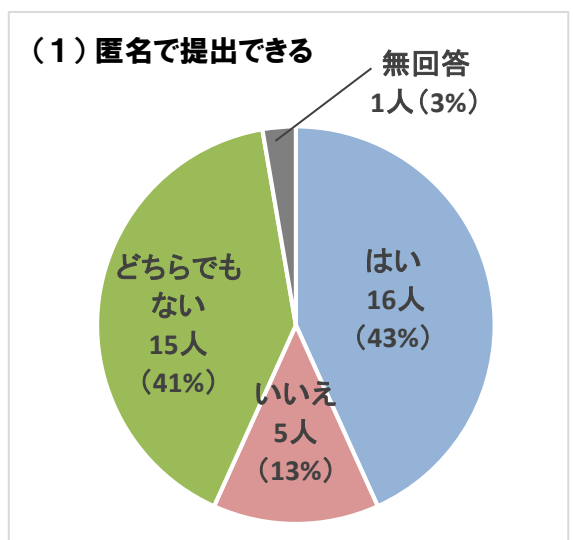




Q4 モニター50人のうち公募25人について、昨年、今年とも公募期間を数回延長しています。当初の公募期間で定員に達しないと思われる理由をお答えください。（複数回答可）

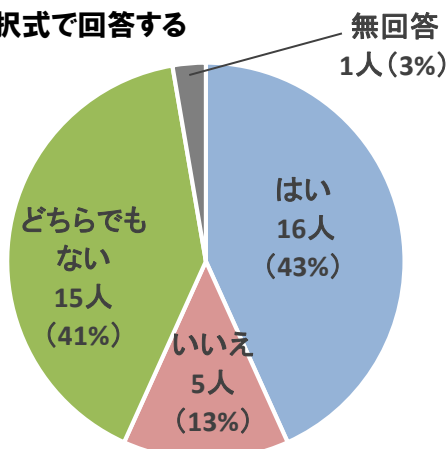


Q5 今後新たな市政モニターを増やす上での参考としてお聞きします。市政への意見を提出する上で、下記の条件は「意見を提出しやすい条件・環境」と感じられますか。

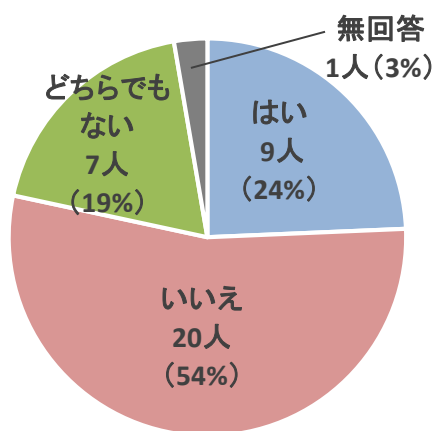


Q 5 今後新たな市政モニターを増やす上での参考としてお聞きします。市政への意見を提出する上で、下記の条件は「意見を提出しやすい条件・環境」と感じられますか。

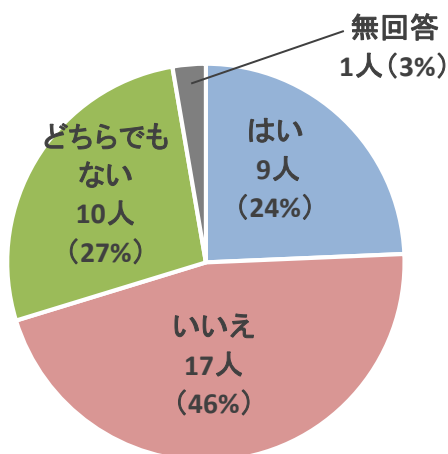
(5) 自由意見を記述するより、  
選択式で回答する



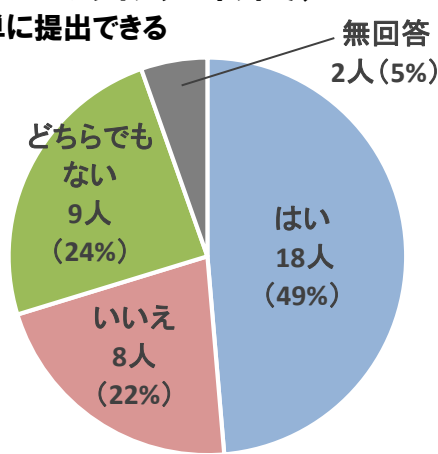
(6) 関心のあるテーマだけ、回答する



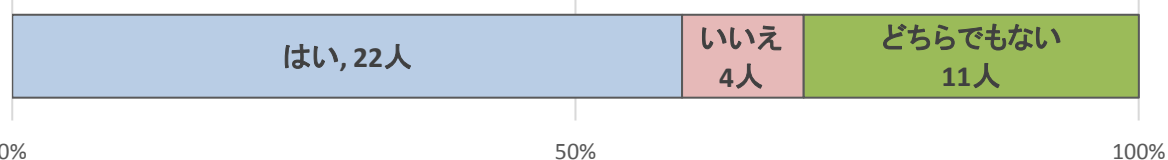
(7) 時間がある時だけ、回答する



(8) メールやインターネットで、  
簡単に提出できる



Q 6 これまでの市政モニターアンケートやテーマに関する説明会を通じて、市政への関心が以前より高まりましたか。



回答	ご意見
はい	今まで関心のなかったテーマについて考えるようになりました。
	無線放送や広報たかしま等で見たり聞いたりしているよりも、説明会に参加したことでより詳細な内容等を知ることが出来た。
	健診や防災については大切と分かりつつも、その時にならないとなかなか行動ができないので、このアンケートが良い機会となりました。
	市が、これだけ熱心に取り組んでおられるのを見て、少しでもお手伝いがしたいと感じた。
	説明会の際、熱心に意見を述べておられた方がいたから。
	市の取組みは、細かい分野まで検討されており、住民サービスのすそ野の広さが分かった。



回答	ご意見
はい	担当の方から直接取り組みを聞いたからでしょうか。関心を持つことができました。
	役所担当の方の話を聞いていて少しは関心を持つようになった。ただこの様なアンケートだけで市政が変わらないと思うが。
	今回の市政モニターのテーマについて、少なからず考える機会が持てたから。
	市民の発言力、市政に対する提案を出来る様になると思われます。
	自分の関心がない分野についてデータを拝見し、関心を持つきっかけになったから。
	問題点を明確に提起しているの。
	市の現状、向かう方が少し見えた。
	他のモニターさんの意見がとても参考になり、アンケート時の回答から変化したり、自分なりに深まったと思います。
	アンケートを回答するためにいろいろなことを聞き、考えるようになったから。
	自分自身が市政に関して知っているようで、知らないことが多いと感じたから。
いいえ	アンケートをするのと市政との関心は別もの。
	意見交換の時間がほとんどなかったではないか。 根本的な問題意識に大きなずれを感じ失望した。こんな事では時間とお金のムダ。
どちらでもない	市政への関心というより、アンケートのテーマ等を少々でも理解しているものと、初めて耳にされる方とでは説明会に臨む姿勢が違いすぎるので、どこまでのアンケート成果を期待しておられるのか疑問に感じるとの思いもすぎる。
	市政そのものより広報課の熱意は感じた。
	テーマに興味湧かないなど。
	全国どこでもかかえている問題。 市政モニターをやめたら市政に接する機会が減るから、興味はだんだんなくなっていくと思う。

Q 7 1年間の市政モニターを通じて、お感じになられたことなど、自由にご記入ください。

1	たったこれだけの人数のアンケートを行って、それがモニターになることはあり得ないと思います。結局何がしたかったのかよく分かりません。言葉は悪いですが、帳面消しという程度にしかならないのではと思います。市政に本当に活かすようなものにするためには、もっと本質的な問題を抽出できるような手法を使う必要があると思います。すぐにインフラとか物的手段とか回数増加等の短絡方向に解決を見出しますが、実は高島は人材不足ってこともあるかもしれません。人材発掘やリクルートが意外と切り口になるかもしれないですね。
2	1年間の市政モニターというが、実質は短期間であった。モニターの活動時期をもう少し早められると良いのではないかと思う。モニターの公募について、市内活動団体枠と一般公募枠があるように思われるが、より良いアンケート結果を求めるのか、市政に関する市民の関心度の高まりを求めるのか、少し疑問に感じた。多分、その両方なのだと思うが・・・。
3	市長、部長らが出席すべきである。彼らこそ、直接市民のカゲの言葉が聞きたいはずである。まず出席すべきを第一にあげる。市職員(担当部署)は声を揃えて同じことを言っている。意見を言っている言葉の中に担当部署の気づかなかったこともあるはず。それをまな板にのせることこそ大事な仕事だと思う。市とは必要最小限の関係しか持たない。しかし私はたとえ少額であっても納税者だ。法律を無視する市行政にはいつかしっぺ返しがかかるだろう。

Q 7 1年間の市政モニターを通じて、お感じになられたことなど、自由にご記入ください

4	<p>いろいろな意見を持っているということは、それなりに真剣にそのことについて考えているはずであるが、市政に関心を持ってもらいたいという市側からの回答は質問に対して回答がないか単に検討する程度のことと終わってしまう。50人という結構大変な数であるが、本当に真剣に意見を出したのものには、誠意ある回答があつて良いのではないか。SPEEDIに関してなどは死に直面する大事な事柄なので、何故市として使用しないのか？使用できないのか？どういった検討をしてそのような結果になったのか？などいろんな疑問が残ったままで終わってしまっている。詳細な回答が出来ない質問はないほうが良い。真剣に答えれば答えるだけ詳細な回答がないと一方通行となりかえってマイナスになるような気がする。これでは、コミュニケーションではない。今後何か市政と関わり合いがあつても『どうせ〇〇だから』と考えてしまいそうである。本当に市政に関心を持ってもらうということは、どういうことかという事をもう一度考えるべきではないだろうか。それと、アンケートテーマに関する事前説明は担当者、アンケート結果は広報担当者の説明では、アンケートを軽んじているように感じるのは私だけだろうか。最後までしっかりと受け答えして初めて責任が果たせるように思う。</p>
5	<p>市政モニターに応募して採否の通知まで期間が長かった。市としてモニター制度を通して市民の関心を図るということを非常に軽視していると感じた。誰かが発言したように制度としてやっていますという程度で、いわゆる「帳面消し」という現実を体験したように思う。市長か副市長のメッセージもない。モニターの人員を増やすなら区長会(自治会)、高校生が良い。一般公募は広報紙を通してホームページそのものの存在をもっと広報してアンケートを募集すれば良いと思います。公募定員にこだわることなく、インターネットで気楽にデータ収集すれば良い。「帳面消し」の印象を持たせることは絶対に意味がない。</p>
6	<p>①私は県政モニター、国政モニター、市政モニターを経験してきましたが、なぜモニター同士の名前も分からないのか。県政モニターでは、住所も名前もみんな知っていて友達もできたのに。 ②県政モニターでは知事と語る会があり、私も直接知事と話し合ったことが、びわ湖放送で放送されました。なぜ市長に直接会わせなかったのか。 ③プライバシーが問題だと言って、13年間図書館協議会委員をやってきたのに、読書クラブがつくれなかった。町から市になった途端、借りている河川敷の地代が跳ね上がり困っただけの時が流れている。(もちろん行政相談員に相談もしました)町から市になって、期待していたのに何も変わらなかった。</p>
7	<p>市政モニターモニター参加者の年齢層に、もっと幅を持たせても良いと思いました。若い方が少なく感じました。公募者数を減らしても良いのではないかと思います。委嘱を増やし、欲しい意見を欲しい層から得る。</p>
8	<p>アンケートの結果がどのように市政に反映されるかが、分かりづらい気がします。インターネットのホームページからの入力フォームなど、広くからの意見を聞けるようにしてはどうか。モニターの人選がどのようになっているか正確には分からないが、ある程度協力的な人をお願いされているのではないのでしょうか。上記のように広くいろいろな人からの意見を聞けるようにしてはどうか。</p>
9	<p>今回初めてモニターをさせていただきましたが、説明会には他の用事と重なり欠席せざるを得なく心苦しく思っています。検討内容により、また諸事情もあつてなかなか年間を通しての日の設定は難しいかと思われませんが、できれば事前(年間分)にお知らせいただければ、優先できたかなと思うこともありました。毎回アンケートの集計も大変だったことでしょくに、いつも詳細にわたるまでまとめていただき、分かり易く説明もしていただき、無関心だった部分も少しは理解しようと思わせてもらったり、自分自身にとって貴重な体験をさせていただくことができ、感謝しております。ありがとうございました。第3回目のモニターの皆さんからの意見を踏まえた今後の市の防災関係施策の意見集約は、1回、2回の資料に比べ、分かり易かったです。</p>
10	<p>今まで、アンケートに対する皆さんの意見を書面にて拝見することはできました。その意見を市政がどのように反映されているのかを教えていただきたいと思いました。</p>
11	<p>資料を見て高島市の現状がよくわかった。土曜日のモニター会議は出席ができないので日曜日にしてほしい。</p>

Q 7 1年間の市政モニターを通じて、お感じになられたことなど、自由にご記入ください

12	モニターになり少しは関心を持てるように努力をしたつもりではあるが、一個人の意見はやはり反映されるまでにはいかない。はい、いいえで答えられない時もある。モニターは色々な職種、年齢、性別で幅広く募集すれば意見は広がるばかりで、ある程度絞ったテーマ別にモニターを募集してみてもどうかと思う。
13	知らなければ、知らずに毎日が過ぎていき、無関心になっています。知ることで関心が生まれるので、まず知ることが大事だと思いました。モニターということで、いろいろ勉強させていただきました。それはそれで、良かったと思いました。
14	高島市について色々知らない事を教えて頂き、ちょっともの足りなかったのですが、良かったです。
15	仲の良いお友達をつくる機会があればと期待したけれど良い出会いはできませんでした。一番最初の認定の日に、きっかけができなかった。これが全てみたい。あとはずるずると参加してノルマを果たすばかりでした。
16	市政モニターの役割について、理解できない面があった。個人的にはモニターとは、提供された事象に対して、意見や感想を述べるものと思っていたが、結果的にアンケートの回答に終始しているようで、モニターとしての役割は何であったのか疑問を感じている。モニターの中には意見を言えない人やレベルの差が出てくるのは当然であるが、そこから何を見つけて行くのが主宰者の技量になってくるのではないのかと思う。この市政モニターの説明を聞かなくて、市の取り組みは細かい部分までわかっており、その面では市の努力を認めざるを得ないが、なぜそこまでやる必要があるのかは、もっと良い方法がないのかは検討すべき課題としてあるよう思われる。そのために市政モニターを活かせば良いのではないだろうか。近年、自治体における財政面での窮境が話題になっているが、その問題を解決するためには、市民を巻き込んだ行政を展開する必要があると考えるが、その実現には行政主導の事業展開から、民と協働する姿勢へ転換しなければならない。その一つの手段が市政モニターではなかったのだろうか。今後、市政モニターが継続されるのであるなら、そのような思想も考慮したものでいただければ、より、進んだ市政環境ができると思います。
17	4回の説明会に参加し、説明会場で参加者からの質問や意見を伺っていますとアンケートをする意味もあるかと思いますが、議論する場も必要ではと感じました。いろいろな立場の方々が集まっているので、一度ぐらいいい（時間を要するかもしれませんが）意見交換会のようなことも良いのではと思いました。私自身、モニターとして役目を果たせていたかは疑問ですが、説明会に参加して知ったこと、勉強になったこともありましたし、説明される担当職員の方々が一生懸命取り組んでいる姿を拝見できたことは、有意義であったと感じています。
18	市政モニターを通して感じたことは若者の定住問題です。高島市が合併して10年、もしこの10年合併していなかったら良くなっている町村もあったかもしれない。今までの町村ですと一町村の単位が小さくて町政等に関心を持つ人も多いと思う。合併して単位が大きくなった事で合併当初ほど市政に関心を持っていたと思うが、10年も経つと薄れている。これでは役所の人たちだけでは無理だとは思う。これでは若者が定住できる環境が整っていかない。若者の働く場所がない。交通の便利が悪い。我々人生の先輩たちは、旧町村根性を持って足の引っ張り合いをしている様に見える。3月14日でしたか、北陸新幹線が開通しました。東京、金沢間が2時間程で行けるという事もあり、北陸各県に企業が進出すると聞く。すばらしい事です。我々高島も湖西線に新幹線の乗り入れが出来る事も聞きます。ぜひ、市、県あげて誘致に、又国道161号線の全線が未だに改良されていない。これも合わせて要望してほしいのと、小浜、今津間の鉄道についても同じ様に早く開通できる様、誘致また要望していただきたい。そして若者が地元で働くにしても、また京阪神で働くにしても、交通の便が良くなれば通勤も可能と思われる。
19	高島市で現在取り組まれていること、課題や問題等知らないことがたくさんあるのだろうということを改めて感じました。とにかくまず関心を持つことが大事であり、それから意識が変わっていくんだなあということを感じさせて頂きました。
20	若者に対してはFacebookやホームページでアンケートに答えると市内の飲食店で使えるクーポンがもらえるなどの特典をつけて携帯で手軽に答えることのできるように工夫する。
21	終わりの時間になってもずっとしゃべっている人がいたので、あまりいい思い出にならなかった。次はもっと若い人にも市政モニターのことを知らせて、年齢層を下げたらいいと思う。そうすれば若い人の意見も聞けると思います。



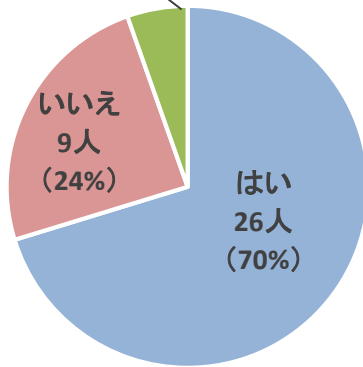
Q 7 1年間の市政モニターを通じて、お感じになられたことなど、自由にご記入ください

22	市政モニターを一年間させていただきありがとうございました。これからは少しは市政に物申すことが出来ると思います。高島の課題、未来の方向性を真剣に、前向きに提案していきたいと思います。
23	おじいちゃんは高島市の市政に関心のある人は多いが、若い人はあまり関心がない。たぶん私の周りも関心のある人は皆無に近いと思う。それに高島市は夫婦共働きで土日も働いている人が多く、若い人は皆忙しい。
24	説明会の日程告知が遅かったです。(せめて2ヶ月ほど前に告知してもらえたら説明会の出席回数を増やすことができたから)最終回の一度しか説明会に出席できませんでしたが、出席者があまりにも少ないので驚きました。年齢や在住年数等様々なモニターがいらっしゃいます。その中で説明会を開催し、説明をするのは大変かとは存じます。そこで、まずは説明をひと通りおこなってからモニターからの質問に答える形式をお取りになった方が良いと思いました。理不尽な要求をするモニターであっても真摯に対応し、理解を求める努力をなさってください。
25	市政について、普段あまり意識していない事も、熟考する良い機会になりました。
26	質問時に、特定の個人が問題としている感じた。
27	市政モニターの募集は無線で聞いていましたが、直接のきっかけは前回のモニターさんから勧められた(頼まれた)からです。市政にあまり関心がなかったのですが、今回の経験から市の定例議会を傍聴しました。
28	市政モニターをさせていただいたことで、市政に関心を持つようになりました。恥ずかしいことですが、そもそも市政に対して声をあげる場所も知らなかったし、あげたところで何も変わることはないと思っていたので、興味もありませんでした。市がいろいろなことを考え、様々な問題に対応しているということもこの一年でよく分かりました。私自身、関心がなかったためか、それ自体知らないことがほとんどでした。でも、私のように知らない人はたくさんいると思います。たくさんの人にまず知ってもらうことが一番大切なことだと感じました。
29	30代女性の市政モニターとしての立場からの意見を述べさせていただきます。30代男女であれば、働き盛りかつ子育て世代であり、正直、市政に関心を持ちたくても日々の生活に時間的なゆとりがなく、大半の30代が、市政に関心を持つ、市政情報を自ら得る行動をおこすこと自体困難であると思います。市政に関しての活発な意見を公に出しているのは恐らく子育ても終わり、時間的なゆとりが出来た年配の方が多いのではないのでしょうか。私自身が子育て最中ですが、公共の場で市政情報を得る機会があるのは、支援センターや保育園・学校であったり、子供の健診であったりします。若い世代の意見を聞くには、別の目的があって集まる時にあわせて、意見を伺うアンケートや、行政情報を配布したりといった工夫が出来るのではと思います。
30	私自身のつたない意見がどれだけ参考になり寄与するかはさておいて、毎回の送付されてきた参加者の皆様のご意見、ご提案を拝読しまして非常に勉強になりました。毎回、会場では限られた時間内で個々の発言は少ないが、記述されたご意見、ご提案はそれはそれは微に入り、細に入りの内容でありまして、私の考えがおぼつかない点もきちんと記述されておりまして、大層助かりました。 4回のテーマの選定も非常にタイムリーであり、的を射ていました。 配布資料もたいへん分かりやすく、これからも重宝させていただきます。 質問に対しての集計作業も手間のかかる仕事であり、担当の方は大変ご苦労様でした。私も若い時内勤にて事務の仕事をしたので、そのご苦労がよく理解できます。

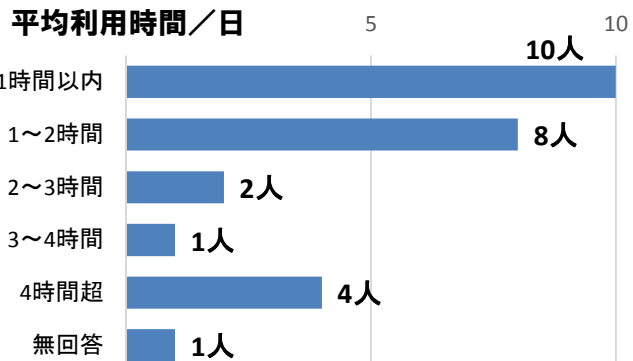
## 市の広聴・広報活動におけるインターネットの活用について

Q 8 インターネットを利用していますか？

今は利用していないが、今後利用を検討したい2人(6%)



Q 8 - (1) (インターネットを利用している方) 1日の利用時間と利用端末の割合はどれぐらいですか？

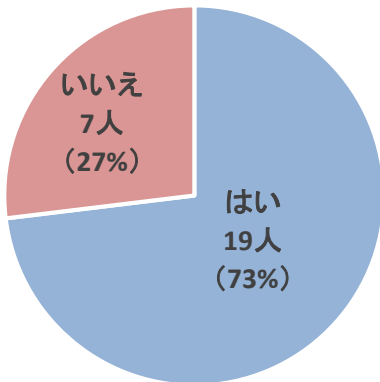


■全モニターの平均利用時間

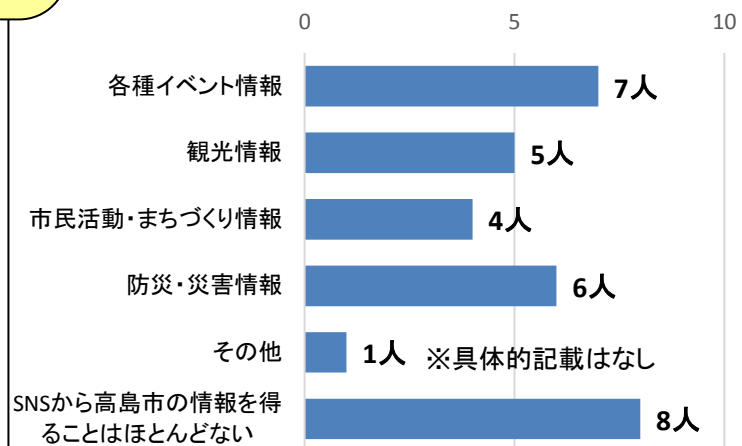
**1日あたり 136分**

(パソコン利用 73分 : モバイル利用 63分)

Q 8 - (2) (インターネットを利用している方) Facebook (フェイスブック)、twitter (ツイッター)、mixi (ミクシィ)、LINE (ライン) などのSNS (ソーシャルネットワーキングサービス) を利用していますか？



Q 8 - (3) (SNSを利用している方) SNSから得る高島市の情報には、どのようなものがありますか？(複数回答可)



Q 8 - (4) (SNSを利用している方) 行政の広報(広報たかしま、防災行政無線)と、SNSから発信される情報の特性について、それぞれの長所、短所を簡潔にご記入ください。

### 行政の広報

長所	広報誌の全戸配布は、諸条件に関係なく一定情報が届く。防災行政無線も全戸に取り付けられているので同様。
	ゆっくりと内容を確認できる。
	年齢層の拡大。
	年齢を問わず、万人に対して情報提供が可能。
	家庭に届くので目につきやすい。

行政の広報	
長所	市内の全家庭に発信できる。
	全ての人が目や耳にする。
	詳しい情報が得られる。
	配布先などが明確にできる。
	インターネットを活用しない世代にとっては不可欠。
	インターネット環境がなくても、最低限の情報は得られる。
	情報の信頼性。
短所	正しい情報を受け取ることができる。
	広報誌の頁数は増加しているが、市民は届いて当たり前感が否めず、関心度やニーズが高い訳でもない。防災行政無線についても同様で、スイッチを切っているとの声も聞く。
	自分にとって必要な情報が分かりづらい(どこに記載されているのか分からないなど)。
	一方通行の発信になってしまう。
	受け取るだけで終わってしまう。
	告知に手間やお金がかかる。
	リアルタイムの情報でない。場所によって情報がとれない。
	情報に新鮮味がない。
	一度目にしたら終わり
	残りにくい。
効果・反応などが分かりにくい。	
防災無線は家にほとんどいない世代にとっては聞き逃しが多い。	

SNS	
長所	必要としている市民に必要とする情報が届く、経費削減が望める。
	リアルタイムの情報を得られる。
	比較的タイムリーで幾度となく目にできる。
	情報が早い。
	情報が早い。スマホなどで身近に入手できる。
	手軽に、どこでも情報を得ることができる。
	必要な時に、情報を引き出しやすい。
	インターネット環境さえあれば、必要な時に瞬時に情報が得られる。
	時間・場所を選ばず必要な時に情報入手できるので便利。
	いつでもすぐに調べられる。
	必要な情報が迅速に発信できる。
	全世界の人に向けて発信ができる。応答もあり。
	自分以外の人に向けて、手軽にシェアできる。
短所	多くの個人レベルでの情報を知ることができる。
	インターネットを全ての人利用していない。
	インターネット環境がないと、情報が入手できない。
	インターネットを活用しない世代にとっては無意味。
	パソコンなどの電子媒体を必要とする。
	誰でも情報が入手できるとは限らない。
	周知されていない。若者向け。
	見なければ、その情報が入手できない。
	関心のある人しか見ない。
	情報が膨大である。場合によっては情報が錯綜し混乱する。
要る情報を登録しないと、使えないし多すぎる。	
万人に対して公平な情報でなくなる。	
情報に対して信頼できない意見等も同時に得てしまう。	
嘘の情報が多いため、正しいと信じるまでに時間がかかる。	



Q9 高島市の広聴広報手段の一つとして、新たにインターネットを活用した方法を模索することについて、どう思われますか？

※高島市の高齢化率（全人口に対する65歳以上の人口）が30%を超えていること、高齢者はインターネットに触れる機械が少ないのではないかとと言われることなどを勘案

1	全くもって賛成です。見るができない人を切り捨てるという訳ではないですが、その人たちに遠慮していたら何もできない。
2	現在、「広報たかしま」「防災行政無線」が行政と市民間の広報・情報ツールとなっているが、全戸配布・年間12回配布・頁数の増加で経費的には、厳しいものがあるということは市民にもよくよく解かる。また、一方では配布については区長・自治会長の負担となっているとの声も聞かれる。しかしながら、市民のニーズが多様化してきてはいるが、高島市の現状を考えると、まだまだ紙ベースでの情報提供でないと取得が厳しいのも現実である。今後のことを鑑みると一方では新たにインターネットを活用した方法を模索する時期にもきていると思う。
3	インターネット(パソコン)は高価、そんな金はない。
4	いろんな手段を講じることは良いことだと思う。どの広聴広報も完全なものはないので、いろんな手段を使うことが必要。
5	以前にTVで過疎の山村でNet普及を図った地域があることを見たことがある。いろいろと試行錯誤して前向きに挑戦してほしい。議員全員が情報機器におくれないようにスキルを上げる必要があるように思う。
6	インターネット等の研修会(市主催)(特に高齢者向け)を開催してほしい。
7	市として、高齢者に向けてインターネット(初歩的、簡単な)の促進、サポートを働きかけていくのもひとつかと思えます。各地区ごとに教育促進できる仕組みを設けていくなど。分担して各地区で教育促進し、高齢者が使用できるようになると介護サポートもしやすくなると思えます。
8	広報は希望者のみとする。広報は一度読んですぐ捨てることが多い。インターネットで見られるのであればそれで良い。広報をもう少し簡略化して経費削減。広報が更新される時にtwitterやfacebookでお知らせすると気がつきやすいのでは。
9	手段のひとつとして、インターネットでの方法はあったほうが良いと思う。
10	高齢者はインターネットの使い方を充分知らないと思われる。市の方で講習会を開催してほしい。
11	インターネット利用は良いことだと思う。インターネットの勉強をしている時間がない。インターネットを利用する金がない。お金がたまったら考える。
12	インターネットは便利だが、セキュリティを十分に検討してもらいたい。
13	80代の自分の祖父母に置き換えると、今から覚えることと、金銭的にも難しいと思えます。
14	パソコンを使用しない高齢者が多いという現実ではありますが、100%を目指さなくても良いのではないのでしょうか。パソコンを既に多くの人を使用していて、紙媒体よりも、パソコンで入手する方が、楽ですし、ゴミが減ります。ネットを利用しないという方には、今まで通り、ペーパーで書類を配布すれば良いと思えます。できることからすれば良いのではないのでしょうか。市の方も、紙の使用量、郵送料、手間の削減が可能かと思えます。その分、市民は、書類を見落としたりしないよう、しっかりなくてはと思いますが、それもまた大事ではと思えます。
15	今の高齢者と、昔の高齢者と比べるとは大間違いと思う。インターネット社会は、今までより広がっていますが、広がっているのはそんなにも古くないので、やり方次第では、便利なアイテムと思えます。ただちょっとインターネットの扱いが安易にされるのが怖いです。
16	情報入手の方法として、市のIDカード化ができれば良いと思われませんが。
17	インターネットの活用は、すでに一般化されてきており進めていくべき方法の一つであると考えますが、それにこだわって過剰な投資やコストをかけることは、検討をする必要があるのではと考える。自治体の中にはそれ以外の方法で効果をあげているところもあり、効果対費用を考慮した対応が必要と考える。

Q9 高島市の広聴広報手段の一つとして、新たにインターネットを活用した方法を模索することについて、どう思われますか？

※高島市の高齢化率（全人口に対する65歳以上の人口）が30%を超えていること、高齢者はインターネットに触れる機械が少ないのではないかとと言われることなどを勘案

18	これからの時代にインターネットの活用は不可欠と考えますが、パソコンが苦手な方は高齢者に限っていないと思います。パソコンの購入、インターネットの接続、セキュリティなど個人任せの中でのインターネット活用は難しいと思います。あくまでインターネットも手段のひとつと考えた方が良いでしょう。
19	今少しはインターネットをやっていますが、利用するまでに至っていない。インターネットは賛成ですが、パソコンもスマートフォンも持っていない人も多いと思う。私はあんまりインターネットのことが分からないが、携帯電話で現在メール配信がありますが、これではできないのでしょうか。
20	インターネットのみで行うことがあるようでは問題だと思うが、ひとつの手段として考えるのは良いと思う。
21	広聴広報手段はたくさんあった方が良いでしょう。
22	時代の流れでネット活用はひとつの手段です。私も情報はインターネットで得ています。ただ、市の情報をどれだけ個々が必要として検索するのでしょうか？検索しなければ情報は伝わりません（ましてやネットに触れる機会が少ない方には、発信しても情報が伝わらない）。ひとつ考えられることは、モバイル（スマホ、タブレット等）の提供（ハード面）によりネットでの活用が可能になるかもしれません。
23	導入するのは良いと思う。若い人が目にする機会が増えるから。高齢者にももちろん目を向けないといけないが、実際に働くのは若い人。若い人の意識が変わらないと高島市は変わっていかない。
24	「高齢者=インターネットが使えない」という図式を打破するために市も高齢者自身も克服するための努力をすべきと考えます。身近なところでは支所などにパソコンを設置するなどまずはパソコンに触れてもらうような工夫から始めてははいかがでしょうか。65歳以上の高齢者を対象としたパソコンやタブレット、スマートフォンの使い方教室を実施しても良いでしょう。
25	インターネットを活用していない高齢者の割合が多いとしても、コストが安ければネット経由の広聴広報の手段の一つとして取り入れるべきだと思います。
26	利用していない人への情報が少なくなる。
27	今の若者が高齢者になる数十年後のためにも、ネット活用を充実させることは必要だと思います。
28	高齢の方はインターネットを利用されている方は少ないかもしれませんが、利用されている方もいると思います。また若い方はインターネットの方が利用しやすいと思うので、インターネットを活用するのは良いと思います。ただ、最近は何でもインターネットになってきてしまっているので、利用していない者としては不便に思います。インターネット以外の手段も今までどおり、いろいろと残してほしいと思います。
29	一定必要であるとは思いますが、特にインターネット世代にとってはやり方次第で効果的ではあると思います。ただ、高島市の人口構成の特徴から見ても、インターネットを活用しない高齢者が多いのも事実なので、これまでの基本的な広報手段である広報誌や無線は継続されるべきなのではと思います。また、個人的には、スマートフォンが登場して以来、自宅でわざわざPC画面を開く機会は全くなくなりました。そういう人は多いのではと思います。よって、ネットでもスマートフォン対応の可否によって、効果的かどうかは違ってくると思いますので、注意すべき点だと思います。
30	多くの手段がある方が、市民が自分に合ったものを選ぶことが出来るので、これまでよりも良くなると思います。

Q9 高島市の広聴広報手段の一つとして、新たにインターネットを活用した方法を模索することについて、どう思われますか？

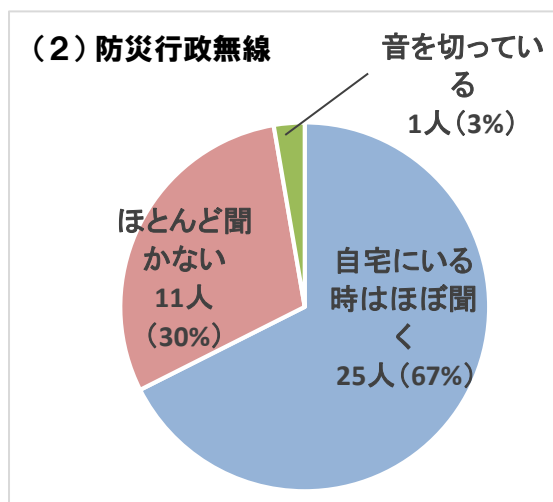
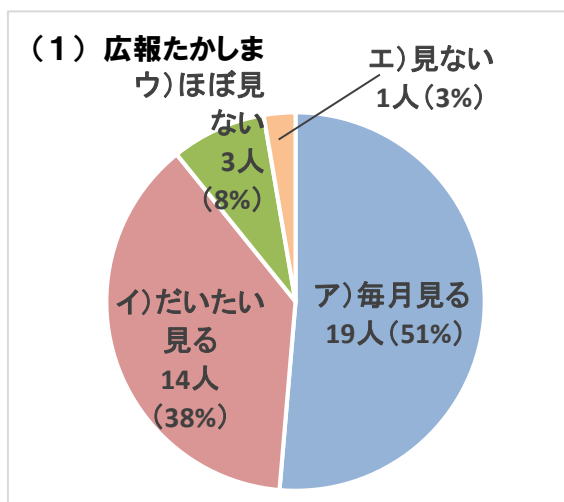
※高島市の高齢化率（全人口に対する65歳以上の人口）が30%を超えていること、高齢者はインターネットに触れる機械が少ないのではないか？と言われることなどを勘案

31

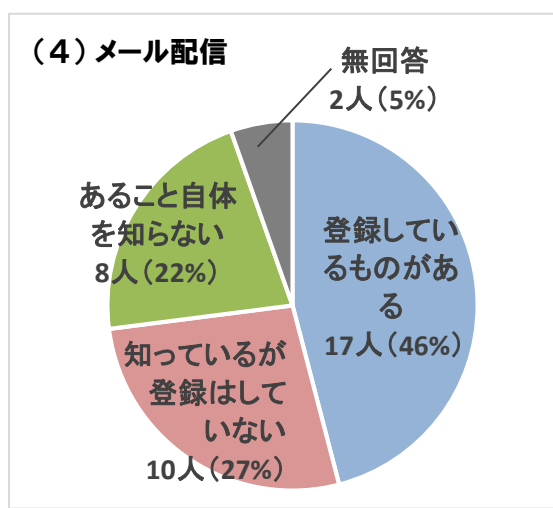
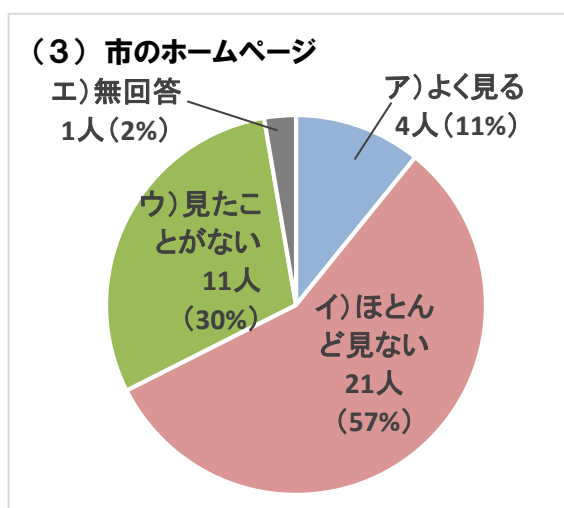
私は自宅にてインターネットの機械、設備（プリンターも含めて）持っていないが、この機械は自宅での普及率はどの程度であろうか（特に高齢者の場合）？現役の時は、勤務先（会社、役所）支給のパソコンが皆机の上にあるが、高齢者が退職して各自の費用で自宅に買っている人はどの程度なのか？昔ながらの情報伝達（新聞、書物、役所の公報、テレビ、電話）でも十分に間に合っているし、これからもパソコンを使わなくてもさして困らない。世の中の流れ、時代の流れかもしれないが、インターネット、パソコン等の中で使われている横文字（英語）が多いのにはうんざりする。SNSとかPDFとか全て英語で意味が分からない。私は日本人なので、日本語を使えと言いたい。英語は大学入試のための受験勉強で終わりと思っている。また、市役所に限らず、各所で尋ねたときに「ホームページで見てください」と言われるのも困る。パソコンの機械を持っていない人は、どうして見ることができるのか？その時私は必ず言う、機械を持っていないので見れません。ペーパーでくださいと言う。

## 市政への関心を高めることについて

Q10 市の広報媒体の視聴・利用状況についてご回答ください。



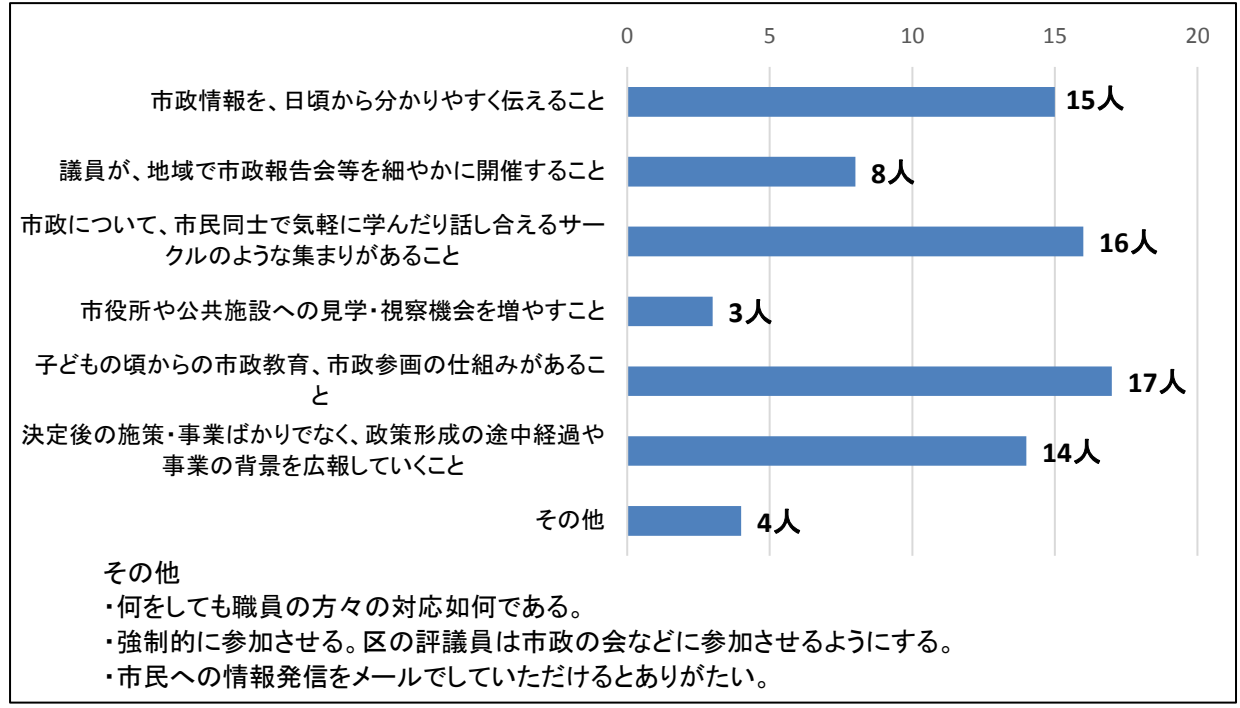
回答	広報たかしま に関するご意見
ア	市のことがよく分かるから。
ア	高島市のことがよく分かって良い。自分自身の勉強の補助になる会に出られる。
ア	身近な人の記事が載っていることがあるから。
ア	生活情報の確認。
ア	自分に必要とする情報のみ確認するため。
ア	何か情報がないか見る。
ア	インフォメーションと文化情報は欠かせない。歴史散歩も楽しみです。
イ	誕生、お悔やみのページはいつも見っていますが、その他はあまり見ていないため。
イ	広報誌が目に入らない場合、見ないことがあるから。
ウ	見る時間がない、興味がない。
ウ	あれば見るが、自分からは見ない。
エ	配られてこないのに、なぜ見られるのか。



回答	市のホームページ に関するご意見
イ	統計情報などを利用している。
ウ	内容そのものをあまり知らないから。必要なときのみ見る。
ウ	あまり期待していない。
ウ	HPIには関心が少ない。
ウ	興味がある内容が載っていない気がする。

回答	市のホームページ に関するご意見
ウ	自分で操作できないから。
ウ	日々の生活に追われて、特に要件もないのにゆっくり市のホームページを見る時間がないため。直接自分自身のことに関する記事がないため。
ウ	特別に関心がある事項があったとき。
ウ	調べたいことがある時に、見る程度だから。
ウ	必要な時にしか見ないため。
ウ	情報を必要しないから。(必要な時は見ます)
エ	見る必要を感じない。
エ	見ようと思わない。
エ	気にならないから。
エ	パソコンを利用しない。
エ	パソコン機器を持っていない。
エ	インターネット利用がないから。
エ	インターネットが繋がっていない。

Q11 市民が市政への関心を深め、市政に参画しやすくするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答可)



Q12 市が行う広報を通じて、市と市民がコミュニケーションを深めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

1	まずは、諸団体やサークルといった組織になっているものと会合を重ねることだと思います。このあたり(高島)の人は、人前で自分の意見を話すことが苦手な方が多く、そんな人たちをいくらたくさん集めても良い意見が出ないでしょう。また、非建設的な人を寄せても、その人たちの普段の文句のはけ口になるだけ。建設的に前向きに物事を捉えることのできる人たちに多く交わることです。
---	--



Q12 市が行う広報を通じて、市と市民がコミュニケーションを深めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

2	<p>Q11にある方法は一定の効果は望めると思うが、          ア:市民を対象に、市政情報を日頃から解かりやすく伝えるのは大変          イ:議員資質の向上にも繋がると思うが、売名的になりかねないことを危惧          ウ:サークルがバランスの取れた思想のもとで運営されれば良いが偏りを危惧          オ:必要だと思うが、どこがその役割を担うかが課題          カ:市民の理解をより深めるためにも必要</p> <p>市民が市政への関心を深め、市政に参画しやすくするためにも、市と市民がコミュニケーションを深めることは重要かと思われる。市町村合併後、支所機能が縮小された時期があったが、高島市のように高齢化や過疎化の課題を抱える自治体にとって支所機能の充実こそが望まれることであると思う。そのためには現状の支所と本所の関係(コミュニケーションを深めるというの言い過ぎかもしれないが)についても改善が望まれる。支所と本所での事業仕分け(?)が必要かもしれない。高いカウンターでの対応ではなく、コミュニケーション能力の高い職員の配置、支所と地域活動団体との連携(市民側から言うと地域活動団体のネットワークの中に支所という団体もある考的考え)、地域住民との連携により、市とコミュニケーションが深まると考える。</p>
3	<p>市にそんな気はない。市の好都合なことには受け入れるけど、不都合なことは聞く耳を持たない。民主主義を信じている者には残念である。</p>
4	<p>コミュニケーションとは「さまざまな情報内容」を「さまざまな手段」で「伝え合う」ことですが、市はどのようなことに対してコミュニケーションを深めたいと思っているのでしょうか。本当に伝え合うことができるのか?できるとすればどのようなことに対してかによって取組がそれぞれ違うので難しいですね。市に意見をする市民に接する対応こそが行政の力量を問われることであり、そのことがコミュニケーションの基本であるように思えます。いろいろ厳しいことも述べましたがお許してください。がんばってください。</p>
5	<p>広報誌の内容は大変努力して創られているとおもいます。ただし1ヶ月に1回なのでもっと早く知りたいことがある。ホームページについての魅力や案内をもっと積極的に知らせてはどうですか?</p>
6	<p>広報の内容をできるだけ身近な、関わりの深いものにする手法のひとつとして、各支所に目安箱のようなものを設けてもらい、気の付いた時に投げられるようにしてはどうか。(インターネットの使いにくい高齢者向けに)</p>
7	<p>市全体、広範囲なコミュニケーションはリアリティーが持てず、参加意欲に欠ける。なるべく小さな各地区ごとに市として出向いてほしい。その際は、テーマや対象者の年齢をあえて絞り込んで、細分化して意見交換していただきたいです。</p>
8	<p>市民同士が触れ合う機会がない。意見を言う場がない。そのような場をつくる。イベント、スポーツサークルのようなものを発展させるなど。ある程度、強制的にしないと参加しない。区から必ず数名は会に参加させる。アンケートを取るなど。</p>
9	<p>現場に出向いて問題点を市民と一緒に考えていく姿勢を持つことが大切と思う。時間もかかり、進捗状況も遅いかも分からないが、行政と市民の間に信頼関係がないと何をしても効果が上がらないと思う。根本は行政と市民がまず信頼の上に立って問題解決にあたらないと何年たっても結果は同じ、実行あるのみ。</p>
10	<p>自治会単位での懇談会の開催。</p>
11	<p>自由参加の形では、参加者が限られてしまい、いつまでもその間の溝は埋まらないのではと思います。まずは、参加してもらうにはどうしたら良いのかを考える必要があるのではと思います。</p>
12	<p>市の担当者が各区で市政報告会を開催していただければと思います(年一度)。また、その折、各区からの要望も聞いてほしいと思います。</p>



Q12 市が行う広報を通じて、市と市民がコミュニケーションを深めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

13	公聴会を開く。
14	支所をもっと活用すべきと思う。
15	希望する市民のメーリングリストをつくり、メーリングリストで、情報を流してはどうでしょうか。毎日、週に1回、月1回とか、そのつど、市政の重要内容をお知らせしてはどうでしょうか。日ごろから、市役所から、情報があるととてもありがたいです。メーリングリストへの登録の希望者を募ってはどうでしょうか。取りあえず、一方向で、必要に応じて、意見を聞くとか。利用方法はいろいろあると思います。市のHPのPRもしていただけるといいですね。まずは、市政に関心を持つことが大事なので、そのために知らせることからよろしくお願いします。
16	社協サービスをもっと増やしてください。
17	市と市民のコミュニケーションは広報だけでは不十分であり、それを深めるにはほかの手段も必要になってくると思う。広報はその機能からすると、市からの一方方向の「お知らせ」等であり、市民との意思疎通を図る機能は持ち合わせていないものである。したがって、広報だけではコミュニケーションを図るツールとしては足りないものがあり、その働きを満足させるための機能が広聴である。その両輪がうまくみ合うことが市民とのコミュニケーションにつながっていくのであろうが、広報と広聴は必ずしもリンクしていないものであり、広報と広聴が適切に実施されていたとしても市民とのコミュニケーションを深める手段としては満足出来るものとはならないのではと考えられる。平成の市町村合併後、身近な行政から少し遠ざかった行政へと変化してきたこともあり、従来通りのやり方ではコミュニケーションが希薄になってしまうことが他の自治体でも話題になっているが、この解決にはインターネットやSNSなどの利用によってできるものではなく、地域ごとの格差ない意見の吸い上げが必要であろうと思う。そのために、自治会や地域の住民団体を利用して発言できない人の声も吸収するようなシステムが必要である。各地域で、市の取り組みを実際に説明し、それに対して意見を聞くような場が必要である。
18	教育の仕組みが重要だと感じます。
19	各公共施設に意見箱のようなものを設置したり、インターネットから随時意見を投稿できるようにする。また、投稿することでポイントがたまるといった仕組みをつくって、何か当たったりもらえたりすることを検討してもいいかもしれない。スタンプラリーではないが、ゲーム感覚で考えたり学んだりできるような、子どもからお年寄りまで楽しく学べるような考えられるようなものが企画できないか。参加してもらったり、題材を考えてもらうことで自然に市に関心を持ってもらえるだろうし、市役所を身近なものに感じてもらえるのではないか。
20	話し合いの場をつくる。
21	Q11に上げられている事項を市民が活用、参画することが大事。ただ私が見てますと市はものをおしつけている様子が見えてきます。市民の意見を深く受け入れようとしているのでしょうか？これではコミュニケーションどころではありません。だからどうせ発言しても報われないと思えてくるようです。市政に対する落胆がつのっていきます。このままでは高島市は魅力ある地域にはほど遠いものになりつつあります。Q11の内容で十分です。やることです。参加することです。
22	「広報たかしま」の中に、市民の声のコーナーを設ける等して、それに担当部署の担当者が回答するようなQ&A方式があると紙面上ですが、顔が見えるような関係に近づくとと思います。また、管理職(部課長)の氏名、顔写真、仕事に対する取組みや自己PRがあると市政がぐっと身近に感じられるようになるのではないのでしょうか。
23	昨年の焼却炉問題について、自治会は市からの説明会を開いてくれませんでした。たまたま環境センターの見学と説明会に参加できたし、広報にも載っていましたが、読まない人もいたので、自治会にはもっと頑張ってほしかったです。ただ、見学会で市長様が説明されたのと同等のものが果たして聞けたかどうかは疑問です。防災無線で、隙間を埋めるごとく、しつこく野焼きや犬の飼い方など流れますが、もっと工夫はないですか。モニターの結果はネットで公開されているようですが、無線での広報をしてみても聞き流しになるとしてもモニターの存在に関心を持ってもらえるのでは。
24	行政が一方向的に市民に対してコミュニケーションを深める努力をするだけでは、現実的には難しいと思います。市政に無関心なことは市民にも責任があるようにも思いますし、行政としてはこれまでどおり現状の広報を継続していただきたいです。

Q12 市が行う広報を通じて、市と市民がコミュニケーションを深めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

25	市側が一方向的にするのではなく、市民からも積極的に何か市のためになる行動が出来たら良いと思う。何事も一方通行でなく、少ない量でも意見を通わせられたら良いと思う。
26	コミュニケーションを深めるという「深める」の意味がよく理解できない。「深める」ということは、役所(市)が住民(市民)より「信頼される」ということだと思う。役所が、住民のために職務に精励して、住民より安心、信頼を得られているのか？これは、高島市のみならず全国でも同じことである。よく考えてください。最初の発信、行動はどちらが先に起こしますか？住民の生活を司るのは役所であり、市民側から先に発信、行動して役所がそれに同調することがありますか？

Q13 広聴制度について、新しい手法・アイデアをお持ちでしたら自由にご記入ください。

1	行政の自己満足にならないことを願う。他県の良い事例は、試してみる必要あり。試してみても、高島市により良い形にしていくのも市民力・行政力かと思われる。ここ数年、市民協働、協働という施策に本来とする協働の姿勢や体制が見られないのを残念に思う。どちらかが一方的にお膳立てをして作り上げたものを共有するというスタイルは協働ではあり得ない。ひとつの課題に対して、時間は要しても真摯な協議の機会を持ち、こつこつと積み重ねていく過程こそが重要なのではと、その経緯のなかで構築された関係こそが、地域の諸課題の解決の力と成り得ると考える。従来から行政が行なってきた広聴制度、担える部分は市民も担っていければと思います。例えば、観光案内所、観光だけのお問合せではないです。市民の皆さんが窓口に来られる事も多々あります。区や自治会に属していない方々は毎月広報たかしまを楽しみに窓口に来られます。自動車をお持ちでない方々は生活の足であるバスの回数券を求めに来られます。もちろん、高校生も回数券を求めに立ち寄ってくれます、顔なじみになって、試験のこと、学生生活のこと、将来のことなど話をする機会が生まれます。観光客が移住定住に繋がることもありますよ。まずは、別荘、それから定住へと。冬のスキー・スノーボード・登山等の観光客もリピーターが多いです。近年、山関係は若者層も多いです、アラフォー世代の女性も機会あれば定住をとの声も聞かれます。市内拠点施設等の窓口やカウンターは本来業務に加えて、観光客対応だけでなく、市民も対象とした多様な情報の集発信の役割を担うことが可能かと思っています。
2	前年度の広聴制度(まちづくり、パブリックコメント、市民意識調査など)で上がってきた問題点をピックアップして、市政モニターのテーマにしては？
3	カたい感じがあって、本来参加して欲しい方に関心を持っていただけない感は否めません。もっとざっくばらんな本音の声を広聴するのであれば、その会自体のプレゼンの仕方も大切かと思っています。若い方向けであれば、市内のカフェなどを活用してもらい、シチュエーションから考慮した方が良いかと思っています(紙媒体もデザイン)。まずは、市民の意識に働きかけることからですので、その会、そのテーマの「見せ方」というのは、とても大切になります。そしてちゃんとその場の小さな意見を後日公開し、市民多数の方と共有できるものも反映する形として必要だと思います。行政にはクリエイティブ力を求めます。
4	インターネットSNSの利用(発言しやすいと思います)。スライド23のように子どもの頃から市政に参加してもらおう授業の一環となるような事業を学校と協力して行う。
5	市政、行政がアンケート結果だけを開示するのではなく、その結果を踏まえてどのような事業や対策を講じたのかまで示す必要があると思います。小さな個人の意見でも、それが大きな市の事業につながったという事実があると、発信する側もやる気がおき、意見も活発になると思います。
6	広聴日を設けて、市長、職員に直接意見を述べられるようにする。
7	防災行政無線を活用して、市議会の様子を聞けるようにしてはどうか？議場に行ってもまでは時間や交通手段等で行けなくても、防災行政無線なら各戸にあり、関心も持てるのではないか？支所等のモニターもあるが、それもそこに行かねばならないし、業務中もなるが声が小さく聞き取りにくい。誰が何を話されているのか分からない。

Q13 広聴制度について、新しい手法・アイデアをお持ちでしたら自由にご記入ください。

8	今までの公聴制度は、日ごろ考えたこともないことを聞かれても、良くわからないなど、聞いても無駄な場合もあり、無駄が多いように思います。やはり、関心の高い方から、意見のある方、要望のある方、専門的知識のある方など、しっかり意見を聞いた方が良いので、SNSの活用で新しい形を創って下さい。よろしくお願いします。
9	広聴制度を利用するにあたって、できればやってほしいことがあります。どの広聴でも一番最初の会合の時に、参加者が相互理解し、発展的な有意義な会合にした方が良いかを考えてほしい。
10	住民意識の多様化、経済のグローバル化、自治体財政の悪化、人口の都市集中、産業の空洞化などにより、特に地方における自治体の運営は大変難しい局面を向かえていると思う。加えて、平成の市町村合併による自治体の広域化は、デモクラシーの希薄化を招いていると言われている。このような状況下においては、自治体が今までどおりの行政サービスを行おうとしても、住民にとっては縁遠いところで市の運営がされているということになりかねないのではないだろうか。もっとも、現状では広域化により今まで通りの行政サービスも困難になってきているのではないだろうか。財政健全化のためだけに自治がおろそかにされてはいないのだろうか。財政健全化も大切なことであるが、行政が住民の自治を顧みなくなることは、自治体の機能をなくすことにつながり、その意味において広報、広聴を超えた住民コミュニケーションを模索する必要があるのではと考えられる。地方自治法第202条の4及び5における地域自治区、地域協議会の設置はそのようなことを配慮して対応されたのではと考える。この件を別にしても、広域化した市政の中で住民の意見を吸い上げ、それを自治に活かすことは重要なことと考えるが、財政難の中、自治会などの組織を使い住民と市行政、議員などが、議論できる場が必要であろう。(小さな集落ほど)
11	現在行われている内容ぐらいで外に思い浮かびません。
12	私は団体役員をしていますが、よく理事会等に市の職員が出席されていたら、その場で解決、意見を聞いていただけたらと思うと、いつも残念に思っているところです。このような時にお願いして出席していただけるようお願いしたい。新しい広聴制度の例が載っていますが、これは外部委託業者によるものですが、市の中でインフォメーション課を導入しても良いと思います。この方がダイレクトで各課にまわしてもらい対応が早いように思います。
13	市のトップである市長への手紙(郵送・FAX・HPからメール)を実施してほしいです。(回答を必要とするものに関しては、必ずしも市長からでなくても担当者からでも良いとは思いますが、管理職の方が対応する形式が望ましいと考えます)
14	職員の知人等で数名を協力者として各々事業ごとに意見を聞く。(職員と市民を近づける)
15	配布資料に示されたような事例があるのに、これ以上のものがありますか？私はこれ以上、以外の手法は考えが尽きません。皆様のご提案で教えてもらおうと思っております。私自身がパソコンを使わないので、そちら方面の知識が及ばないのが原因かもしれません。